



旧三井田川鉱業所伊田豎坑（田川市）

筑豊・田川
CHIKUHOU・TAGAWA

日本石炭産業の礎を築いた筑豊。終着点である釧路。

8月1日から9月13日まで開催された企画展では、二つの炭田地帯を通じて、その差異と類似点から、石炭産業の過去と現在を見つめました。

北と南を結ぶヤマ

石炭産業の過去・現在

平成21年度田川市石炭・歴史博物館×釧路市立博物館夏季企画展
第2弾



釧路
KUSHIRO



釧路コールマインのSD採炭（釧路市）



田川市石炭・歴史博物館企画展「北と南を結ぶヤマー石炭産業の過去・現在」に関連して、8月23日、「炭鉱のあるマチ、釧路」と題して釧路市立博物館学芸員の石川孝織いしかわ たかおさんが特別講演を行いました。

今回の企画展は、釧路市立博物館との共同開催で、筑豊と釧路の炭鉱の比較から、日本石炭産業の過去と現在について理解を深めてもらうことを目的に開催。

過去、全国出炭量の半分を占め、日本石炭産業の礎を築いた筑豊と、現在日本で唯一坑内採炭を行っている釧路。そのため、筑豊の石炭産業史の大きな蓄積と閉山後のまちづくりの様子は、



釧路にとって参考になり、また閉山後の石炭産業の歴史が失われた筑豊にとっては、釧路の様子は貴重な情報となっています。

意外にも田川と釧路の結びつきは強く、国策の「急速転換」として昭和19年、休坑・保坑となった釧路の炭鉱から、970人の炭鉱マンが筑豊などへ転出したことや、三井田川伊田豎坑を開削した田邊儀助たなべぎすけは、田川から釧路に渡って、釧路コールマインの前身である太平洋炭鉱釧路鉱業所の初代所長となったなどの史実があります。

講演では釧路炭田の歴史や最新の採炭技術を紹介。人だけでなく、筑豊の技術や知識が釧路に伝わり、現在ではベトナムなどの海外へも伝わっていることが報告されました。

石川学芸員は「筑豊の歴史と技術が釧路に集約されて、現在では海外にも広がっている。南北交流の意義が再確認できた」と語りました。